

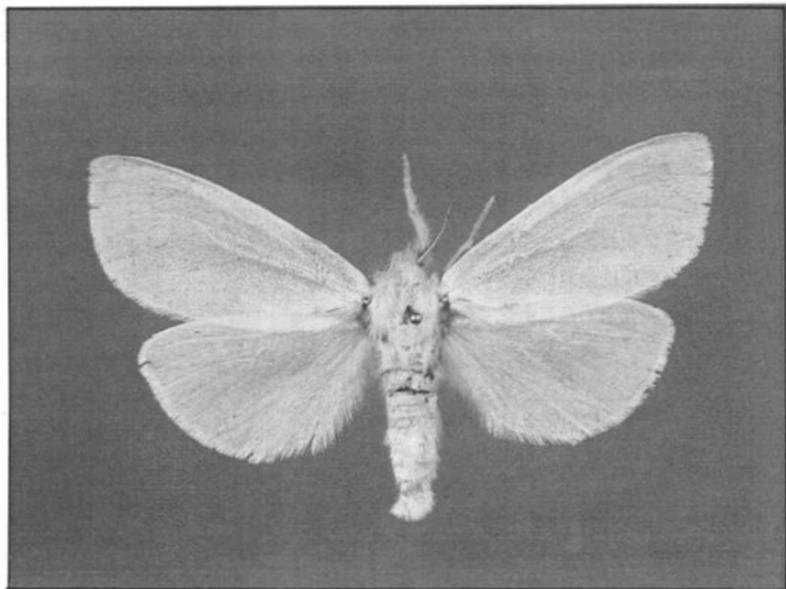
# 市川自然博物館

## 2・3月号

(通巻第60号)

## だより

いち  
かわの  VI 蛾と環境



△湿地に生息するスゲドクガ。幼虫がヨシを食べるので、  
湿地でしか見ることができない。

# いちかわの蛾 VI 蛾と環境

蛾の幼虫は、翅をもつ成虫と異なり、ごく限られた移動能力しかありません。そのため、卵は餌となる植物が豊富な場所に産みつけられます。幅広い植物を餌とする蛾では産卵適地も多くありますが、特定の植物しか食べない蛾では産卵の場所も限られてしまいます。今回は蛾と環境の関連を取り上げました。

## ●湿地の蛾

湿地に生息する蛾には、特定の植物だけを餌とする傾向が強くなります。市川市内で記録された種類について見ると、下記ようになります。

- ・ヨシだけを食べる
  - タテシノメイガ、スゲドクガ
- ・カサスゲだけを食べる
  - チャバネツトガ
- ・ガマだけを食べる
  - ガマヨトウ
- ・イ（イグサ）だけを食べる
  - イグサヒメハマキ
- ・ヤナギタデだけを食べる
  - ギンモンアカヨトウ
- ・ヌマガヤだけを食べる
  - シロフコヤガ

また、何種類かの植物を食べる蛾にしても、例えばヒメマダラミズメイガが食べるのはスイレン、ハス、トチカガミ、ウキクサ、ヒシ、デンジソウといった池や湿地に特有の水生植物ばかりです。したがって、これらの蛾は湿地という環境、それも幼虫自身というよりも、餌となる植物が生育できる環境がなければ生きていけないことになります。

実際、前述したなかでもヌマガヤを食べるシロフコヤガは、すでに市川市内からヌマガヤが絶滅しているため、古い記録（1955年）しか残っていません。また、カサスゲを食べるチャバネツトガは、カサスゲ自体は各地で普通に見られるものの、県内での記録は市川市と我孫子市しかありません。これが調査不足のせいなのか、カサスゲが生育しているだけでは不十分な何か別な要因があるせいなのかは、よくわかっていません。

図1 ヌマガヤとシロフコヤガ



### ●林の蛾

林に生息する蛾は、湿地の蛾ほど餌となる植物が限定的ではありません。いわゆる多食性で、多種多様な植物を餌とすることができます。すでに特集で取り上げたヤママユガの仲間、フユシヤクの仲間などがその代表ですが、なかにはヨツボシホソバ(図2)のように樹木に生えるコケを餌とする変わり者もいます。

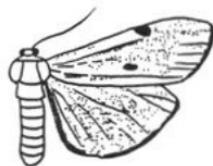
### ●街路樹の蛾

街路樹=サクラ=アメリカシロヒトリという図式がかつてありました。しかし、最近はいぶ様子が変わってきました。街路樹のサクラに大発生するのは、おもにオビカレハ(「天幕毛虫」とも称される)とモンクロシャチホコ(図3、「舟型毛虫」とか「桜毛虫」と呼ばれる)です。そのほか市内の街路樹でよく見られるものとしては、ミノムシの一種であるオオミノガ、帰化種のヒロヘリアオイラガ、ヤママユガの仲間のクスサンなどがあります。街路樹は、同一種がある程度まとまって植えられるのが普通です。したがってそれらを餌とする蛾にとっては、大発生しやすい条件が整っているともいえます。

### ●庭や公園の蛾

庭や公園で暮らす蛾は、要するに害虫です。市川市内でもよく使われるマサキの生け垣にはユウマダラエダシヤク(図4)がよく発生します。つやのある黒色をした幼虫はいわゆる尺取虫で、マサキの葉を食害します。マサキには、ミノウスバという蛾の幼虫も発生します。

図2 ヨツボシホソバ



開張: 4.0 ~ 4.8 cm

図3 モンクロシャチホコ



開張: 5.0 ~ 6.0 cm

図4 ユウマダラエダシヤク



開張: 3.5 ~ 4.5 cm

庭木には、様々な蛾の幼虫が発生します。オビカレハ、マイマイガ、チャドクガ、オオスカシバ、ホタルガなどで、いづれも庭木の葉を食害します。

## ●家の中にすむ蛾

気密性の高いマンションなどは別にして、他の一般的な住宅では、室内で蛾を見かけることがあります。夏の夜に網戸の隙間から入ってくることもあります。室内で暮らす、あまりありがたくない種類もいます。

イガ(図5)は、衣類の害虫として世界的によく知られています。名前は「衣蛾」で、幼虫が羊毛製品を食害します。また、羊毛製品の繊維をかみ切つてミノムシのように巣を作り、巣の周辺を糞などで汚します。野外での生活の詳細は不明で、原産地すらわかっていません。衣類とともに世界中に分布を広げました。

ジュウタンガという種類もいます。もちろん「じゅうたん蛾」で、じゅうたんや毛布の毛を食べ、毛の間に糸を張つて巣を作ります。ただし、こちらの方はイガと違って日本国内での記録はほとんどないようです。

また、コメシマメイガなどのメイガ類は、家の中の乾燥食品などを食べます。

図5 イガ 開張: 1.0 ~ 1.4 cm



幼虫

## ●都市化が進む市川の蛾

蛾の生存には、幼虫の餌となる植物の存在が不可欠です。市川のように都市化が進行している地域での蛾の消長は、すなわち餌となる植物の消長と言っても過言ではありません。そういう観点で市川的环境と蛾の関連をとらえると、つぎのようなことが言えそうです。

まず、急速に生息場所が狭められている種類がいます。湿地の蛾です。先に述べたように湿地に暮らす蛾の多くは、単一の種類の植物を餌としています。言い換えれば、別の植物への乗り換えができないわけです。ですから湿地が埋め立てられれば、餌もろとも消えていく運命にあります。湿地の環境が残されている大町公園の自然観察園では、スゲドクガの幼虫を簡単に見ることができます。しかしこれは、市全体からすると珍しいことなのかもしれません。

一方で、生息場所を拡大している種類がいます。庭木や街路樹などの植栽木を餌とする種類です。市川における都市化とは、すなわち住宅地の拡大です。良好な住宅地が整備され緑豊かに彩られれば、その緑を餌とする種類が増加するのです。しかも多くの場合、何種類もの木を餌とできるので、そうそう餌にも困らないはずで、人為的な防除を施さなければ、今後も増加の一途をたどると思われます。

蛾は、昔から人々の身近にいました。決して好かれる存在ではなかったのですが、都市化の進行によって、身近に蛾はいてもその種類組成はガラリと変わってしまったのかもしれない。



# 街かど自然探訪

おじゃまします!

ふくま

福栄・住宅に居候するコウモリ

住宅が密集する行徳ですが、広い水辺と湿地を合わせ持つ行徳野鳥保護区に隣接する福栄の住宅地では、いろいろな生き物が保護区との間を行き来しています。

特にアブラコウモリは、昼間は住宅の天井裏や戸袋の中などに居候して休息し、夕方になると保護区の開けた水辺に飛来して昆虫などを捕食します。2つの場所をうまく利用して、生活しているといえます。他にも蛇やクサガメ、ヒキガエルなどが時々庭先に現れるそうです。



## RDB レッドデータブック

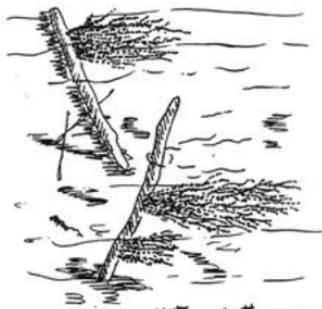
掲載種紹介



### カワモツク類

海藻と同じ藻類で、海ではなく淡水の水辺に生育します。水質的にもある程度のきれいさが必要で、市内で確認されているのは大町公園の自然観察園だけです。

カワモツク類に限らず、淡水に生育する藻類や水草は各地で激減しています。水質悪化や河川整備などの影響だと言われています。自然観察園でも、カワモツク類の量は確実に減っています。生活排水の混入やコイに与える餌による水質悪化が原因のひとつと思われます。



分類 紅藻 カワモツク科  
ランク 準絶滅危惧

10月、

くすのきの枝払いが行われました。

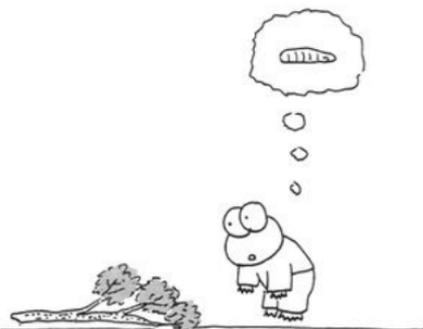
街路樹は、クスノキに限らず定期的に剪定（枝払い）が行われます。見通しの確保や、大きさの調整など、どうしても必要な作業です。アオスジアゲハの幼虫のことが気になって、業者の方に聞いてみたそうです。

「青虫がついてませんか？」

「刺す虫なら、たまにいるけど……」

残念ながらアオスジアゲハの幼虫は、手に入らなかったそうです。

（情報提供：水垣麻理子さん）



ただいま

**ホームページ発信中!**

Let's access!!

[ <http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature/> ]

市川の野生生物 電子図鑑（続き）

電子図鑑では、市内で見られる身近な生物をいくつかの切り口で紹介しています。「身近な植物」では、身の回りの雑草などを、「江戸川のさかな」では、多くの市民に親しまれている江戸川を生活の場とする魚を紹介しています。

また、市内至る所で見られるカラスについても積極的に取り上げ、「都会のカラス」と題して、その暮らしぶりの一端を紹介しています。カラスの別な一面が伝わればと考えて作ったテーマです。

金属を用いた巣



都会のカラスは、東京の最内側の都心である赤坂などの人集りに集まるという、インパクトと生態習性から集まることが多い。強い金属を用いて築いた巣は極めて丈夫で、またその巣で産卵もし、いざ知らず、卵も産卵材料を消耗しているのかもしれない。

【電子図鑑 サンプル】

## 観察ノート

## ◆自然観察園より

- ・ウソのオス2羽、メス1羽、ルリビタキのオス、メス1羽ずつが見られました(12/20)。

石井信義さん(菅野在住)

- ・耕したばかりの柔らかいナシ畑の地面にノウサギの足あとがありました。フェンス沿いに走った後、畑の中の方へ走っていったようです(1/7)。

宮橋美弥子(自然博物館)

- ・セイヨウミツバチがツバキの花にきました。暖かかったので、餌探しに出てきたようです(1/13)。

小川 晃(自然博物館)

## ◆市川北高校付近より

- ・タゲリが今年も飛来しました。11月末ころから見られるようになりました。
- ・イカルチドリが2羽見られました。北高校の北側の田んぼです(12/11)。

石井信義さん

## ◆こざと公園より

- ・カワセミ1羽、バン1羽を見ました。また、何種類かのカモ類を見ました(オナガガモ、ホシハジロ、ハシビロガモ、マガモ、カルガモ)。そのほかハクセキレイとムクドリも見られました(1/31)。

田中幸子さん(須和田在住)

## ◆大野町より

- ・雑木林のふちで、ヒヨドリジョウゴの実が真っ赤に色づいていました。液果なので、同じ赤でもカラスウリよりも透明感が感じられます(12/10)。

## ◆柏井雑木林より

- ・エゴノキが一度、完全に落葉した後で新葉を展開し、花も咲かせていました。弱々しいとはいえ、満開といった感じの規模でした(12/19)。柏井講座にて。

以上 金子謙一(自然博物館)

## ◆本北方より

- ・朝、ジョウビタキが駐車場の柵の上をピョンピョン飛んでいました(11/25)。

小川 晃

## ◆江戸川放水路より

- ・旅鳥のムナグロが、干潟で餌を取っていました(11/25)。

## ◆塩浜沖より

- ・カンムリカイツブリが6羽、見られました。その他にハジロカイツブリ2羽と、もう1種類、大型のカイツブリが見られました(11/25)。

以上 宮橋美弥子

◎雨がちの夏から一転、11月は記録的な少雨となりました。



# 行事案内



## 自然観察会

### ○クロマツのある町並み

市川の木クロマツの生える町並みを歩いて、地形との関係などを観察します。

- ・日時 … 5月9日(日) 午前10時～12時
- ・場所 … 市川～中山 約4kmを歩いて観察します。
- ・対象 … 一般(親子での参加もできます。)
- ・定員 … 申込み先着20名。
- ・受付開始… 4月17日より

### ○干潟の観察

初夏の干潟でカニや貝を捕まえて観察しよう!

- ・日にち … 6月13日(日) 午前中に行きます。
- ・場所 … 江戸川放水路
- ・対象 … 親子向け(楽しみながら自然に親しみます。)  
幼児を連れて方や大人だけでもどうぞご参加下さい。
- ・定員 … 申込み先着10組
- ・受付開始… 5月15日より

## 〒申込み方法

各行事とも往復ハガキに参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号・返信のあて先を書いて、受付開始日(消印)以降に自然博物館までお申込みください。

## 『博物館だより』定期購読者募集

「博物館だより」を定期的に読んでみませんか!

送料分の切手をお送りいただければ、年6回発行の「博物館だより」を郵送いたします。下記の要領で、博物館までお申込みください。4-5月号より、お送りします(5月上旬発送予定)。

### ※ 申込み方法 ※

氏名、住所、電話番号を記入し、送料分の切手(90円切手1枚と80円切手5枚)を同封の上、自然博物館まで封書でお申込みください。

市立市川自然博物館だより  
 第10巻 6号(通巻第60号)  
 発行日/平成11年3月31日  
 編集・発行/ 市立市川自然博物館  
 〒272-0801 千葉県市川市大町 284番地  
 ☎ 047(339)0477  
<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature/>